

穴性の検討課題

愛媛中医学研究会 越智富夫

当初の穴性の検討課題

1. 穴性、効能、作用、主治の違いは？
2. 穴に固有の特異的作用があるのかないのか。
3. 穴性は使えるのか使えないのか。
4. 穴性を否定すれば「理—法—方—穴—術」という体系が維持できなくなる。
5. 穴性に代わる有効な選穴方法はなにか。
6. 針灸の「弁証論治」は意義を失ったのか。
7. 日本の経験の蓄積は貴重、総括して発信する。

コメント

「上記7項目が当初「穴性の検討課題」として提出されたものです。これまでの「穴性」についてのお話を聞いてこの課題の概要は大体つかめたのではないかと思います。今回私は2・5・7の項目についてお話ししますが、その中でその他の内容についても触れていきたいと思えます。」



穴に固有の特異的作用があるのかないのか。

腧穴の属性

- 「特定穴」と「狭義の穴性」に二分できる。
- 「特定穴」五輸穴・募穴・背俞穴などの固有の属性。
- 「狭義の穴性」 = 「穴性」
- 「穴性」穴に具わる性能，意義は薬性と同じ。
- 「穴義」と表されることもある。

経穴の主治作用

- 局所部位に対する治療作用
- 近隣部位に対する治療作用
- 遠隔部位及び全身に対する治療作用

コメント

「中薬は薬の偏性（薬性）を用いて病勢を処理します。鍼灸は穴の偏性（穴性）を用いて病勢を処理します。このように中薬の考え方を「穴性」「薬性」と対比してその理論の中で理解しようとしているのです。また、「定位は経絡弁証から導き出されるもの、「定性」は臓腑弁証から導き出されるもの」と考えるとわかりやすいと思います。しかし、それぞれの弁証法に境界線を引くことは無理でしょう。それぞれがお互いの内容を含んでおり、どこからどこまでかということを明確に示すことができないからです。用語についてですが、主知作用という言葉から「作用」は「主治」を含めた概念であることがわかります。また、「効能」も「穴性」を含めた概念であると理解することができます。」

穴性に代わる有効な選穴方法はなにか。

- 経絡学説に基づく弁病位を主とした伝統的な針灸弁証論を中心としたもの。
- 古代の針灸の取穴原則，穴性の内容は含まれていない。
- ここでの意義は穴性は腧穴の効能であり，病性に合わせた表現である。
- 歴代の針灸治療における取穴原則は病位にもとづくもの。
- 病位を確定し，病変経絡を明らかにし，選穴治療する。
- 病性を弁証する必要があるが，寒熱虚実の病性の処理は刺針手法によって体現される

日本の経験の蓄積は貴重、 総括して発信する。

- 日本では、切診が発展
- 腧穴は治療点であり、診断点でもある。
- この特徴から診断即治療が可能となる。
- 経絡診と腹診を重視した日本独自の弁証法と治療体系の確立が望まれる。

コメント

「シンポジウムで「穴性」の意義についての理解はおよそ一致していることがわかりました。「穴性を」＝「腧穴の効能」と考えるのではなく、テーマは「協議の穴性」をどのように考えるかという問題があります。議論のテーマを明確にして、常に臨床と結びつけて、議論を進めていくことで、この問題の重要性と論点が見えてくるのではないのでしょうか。また、この議論のその先には日本のこれまでの経験を活かした新たな「日本型弁証論治」創設の一步となるのではないかと期待して今回の指定発言の締めくくりといたします。」